

令和 7 年度 牛久市社会福祉協議会 事業報告書

実施事業名	実施内容	実績成果等
I.その人らしい生き方を支援する。		
1. 人が出会い、ふれあえる場の提供 家族や地域の絆を深め、お互いが理解し合い、支え合える場を作り、かけがえのない人の輪を広げる		
(1) 家族や地域をつなげる環境の整備		
①介護者リフレッシュ事業	○介護者の集い ・ 11/26 18 名 らぼっぽなめがたファーマーズヴィレッジ・道の駅いたこ	・ 小旅行を通して、参加者同士が楽しく交流することができた。
②介護サロンぬくもり	○介護サロンぬくもりの協働実施（月 1 回） ・ 4/10、5/12、6/10、7/10、8/12、9/11、10/10、11/10、12/11、1/13、2/10、3/10 ・ 参加者延べ 127 名 ・ 介護の悩みの共有・介護相談等	・ 参加者同士の交流を通して、リフレッシュにつながった。
2. 自分自身の表現する場と社会貢献につなげる場の提供 その人らしい生きがいをづくりを支援し、地域において個々の力が発揮できるきっかけをつくる		
(1) 生きがいをづくりの支援		
①高齢者いきがい活動	○太極拳教室 ・ 第 1・2・3 金曜日（全 30 回） 53 名 ○フォークダンス教室 ・ 第 1・2・3 木曜日（全 30 回） 25 名 ○シニア向け料理教室 ・ 9 月～2 月（全 6 回） 18 名	・ 定期的に体を動かすことにより、参加者の生きがいと健康増進につなげることができた。
(2) 自分の力を地域に活かすきっかけづくり		
①地区社協リーダー研修	○地区社協情報交換会 ・ 12/19 市保健センター 研修室 ・ 参加者 地区社協リーダー等 65 名 ・ グループごとに分かれて情報交換	・ 新たに役員になった参加者も多く、ほかの地区社協がどのような活動や広報をしているのか積極的に情報交換することができた。
②一家にひとり地域ヘルパー養成研修	○地域ヘルパー養成研修の実施 ・ 開講期間 11/12～12/17 のうちの 6 日間 地域医療連携センター ・ 修了者 3 名	・ カリキュラムに施設見学実習を加え、6 日間の研修を実施し、参加者からは講義内容等好評を得た。
II.地域住民の生活課題を解決する。		
1. 総合相談・総合支援の充実 各関係機関・団体等との連携強化を図り、住民の生活課題を早期発見・解決に結びつける仕組みを構築する		
(1) 総合相談窓口の整備と各種相談機関との連携		
①総合相談「あんしんホットライン」の運営等	○専用フリーダイヤル ・ 常時開設 相談件数 204 件 ○専門相談の設置 相談件数 180 件 【心配ごと相談】第 1～4 週金曜日	・ 市民の身近な相談窓口として、法律に関することや近所とのトラブルなど、様々な相談が寄せられており、心配ごと相談や必要に

実施事業名	実施内容	実績成果等
	・主な相談内容は相続や借金等 【高齢者に関する相談】随時 ・家族介護や認知症についての相談	応じて専門機関等へつなぐことができた。
2. 福祉サービス利用支援の充実 住民の立場に立った福祉サービス利用の援助や、日常生活における課題に対する支援を行う		
(1) 要援護高齢者への支援の充実		
①地域包括支援センター事業	○総合相談支援業務・権利擁護業務 ・新規相談件数 868 件 (うち高齢者あんしん電話 91 件) ・延べ対応件数 11,796 件 ・グループホーム運営推進会議 18 回 ※一部書面会議実施 ○包括的・継続的ケアマネジメント業務 ・介護支援専門員連絡協議会開催 4 回 会員数 196 名 ・訪問看護事業所連絡会 6 回 ・合同勉強会 30 名 ・交流会 12 名 ○介護予防ケアマネジメント業務 ・指定介護予防支援事業 実施件数 2,720 件 介護予防支援収入 13,652,826 円 ・介護予防・日常生活支援総合事業 実施件数 2,398 件 ケアマネジメント費収入 12,045,657 円 ○訪問調査事業 認定調査件数 52 件 認定調査収入 200,200 円	・認知症を入り口とした相談が多く、他機関と連携し継続的に支援を行う必要のあるケースが増加傾向にあった。 また、独居で心身の機能が低下し、サービス等の導入が必要と思われる対象者より、関わりを拒否されるケースも一定数あり、長時間・複数回に渡る支援が必要なケースも増加した。 ・令和 6 年度より、指定居宅介護支援事業所が指定介護予防居宅介護支援事業者としての指定を受けることができるようになったことにより、指定介護予防の実施件数は減少。 近隣居宅介護支援事業所の協力を得ながらマネジメントを実施した。
②地域ケア個別会議事業	・開催回数 4 回 (6・9・12・3 月開催) ・検討事例数 8 事例	・多職種が専門的視点から個別のケースを検討することで、自立支援、重度化防止のための介護支援専門員のケアマネジメント支援を行うとともに、地域課題についても話し合った。
③認知症初期集中支援事業	・対応件数 4 件 ・チーム員会議 延べ 9 回 ・訪問回数 延べ 73 回 「未受診の認知症が疑われる高齢者への支援」 「未受診の認知症状が顕著な高齢者への支援」	・受療に繋がり、定期的な受診や服薬ができるようになった。介護保険申請やサービス利用、成年後見制度の申し立てに向けて支援を行った。
④認知症ケア向上推進事業	○相談対応件数 133 件 ○認知症サポーター養成講座 10 回	・隔月でオレンジカフェを開催し、閉じこもり予防や他者交流の

実施事業名	実施内容	実績成果等
⑤見守り台帳整備事業	○認知症サポーターステップアップ・フォローアップ研修 7回	機会を提供することができた。また、オレンジカフェ新規開設に向けて認知症サポーター養成講座を開催した。また、パネル展や上映会の実施、他職種向けに事業説明を行い、より認知症に対して正しい理解と住みやすい街づくりを目指した活動ができた。
	○認知症周知・啓発活動 ・中央図書館にて認知症パネル展開催・認知症ケアパス配布 ・市民向け映画上映会 96名 ・認知症ケアパス改訂 ○ぐうたオレンジカフェ 6回 ○多職種連携研修会 29名	
	登録人数 67 行政区（準行政区含） 3,458 名（65 歳以上高齢者の 13.5%）うち、高齢者世帯数 909 世帯、独居高齢者世帯数 1,485 名	・要援護対象者の相談時に基本情報や緊急連絡先の情報を支援に活かすことができた。
(2) 障がい者への支援の充実		
①障害者相談支援事業	●障害者基幹相談支援センター ○相談件数 722 件 ○市内相談支援事業所への支援 76 件 ○関係機関からの相談及び連携 184 件 ○研修 ・意思決定支援 17 事業所 41 名 ・相談支援事業所事例検討会 計 4 回 延べ 66 名 ○相談支援従事者研修(初任・現任)実習受入れ 初任者 5 名、現任者 2 名 ○自立支援協議会の開催準備・参加 全体会 2 回、部会 4 回 ○研修への講師派遣 3 回 ○グループホームが実施する地域連携推進会議への参加 2 回 ○認定調査の実施 36 件 ●障害者相談支援 ○実利用者数 障害児 44 名 障害者 193 名 ○相談件数 4,134 件（児 295 件・者 3,839 件） 身体障害 293 件（児 7 件・者 286 件） 重症心身障害 69 件（児 27 件・者 42 件） 知的障害 982 件（児 114 件・者 868 件） 精神障害 2,146 件（児 0 件・者 2,146 件） 発達障害 373 件（児 143 件・者 230 件） 高次脳機能障害 122 件（児 2 件・者 120 件） 難病 110 件（児 0 件・者 110 件）	・障害者基幹相談支援センターが開設したこともあり、障害者相談支援として対応した件数を含めると 4,856 件となり、令和 6 年度の 4,647 件から約 5%増えた。 ・基幹相談支援センターができたことで、引きこもりや世帯支援が必要な家庭に関する相談も増えたが、それぞれのケースに関わっている関係機関と連携しながら継続した支援を行った。また、基幹相談支援センターの役割である「地域の相談支援体制の強化の取組み」として、市内相談支援事業所に対し、研修や助言等を行うことで、相談員が知識やスキルを学ぶきっかけを作ることができた。 ・利用者からの不安等の訴えも多い中、丁寧に話を聞くことで、安心感や日々の生活の安定につながることができた。

実施事業名	実施内容	実績成果等
	その他 39 件（児 2 件・者 37 件） ○支援方法 訪問相談 304 件 来所相談 106 件 同行 92 件 電話相談 2,613 件 電子メール・FAX 69 件 個別支援会議 38 件 関係機関 899 件 その他 13 件 ・市受託金収入 36,476,991 円 ●特定相談支援 ○利用実績 契約件数 504 件（児 212 件・者 292 件） 身体障害 51 件（児 9 件・者 42 件） 重症心身障害 19 件（児 5 件・者 14 件） 知的障害 203 件（児 84 件・者 119 件） 精神障害 76 件（児 0 件・者 76 件） 発達障害 139 件（児 114 件・者 25 件） 高次脳機能障害 11 件（児 0 件・者 11 件） 難病等 5 件（児 0 件・者 5 件） ・計画案作成件数 476 件 ・モニタリング件数 509 件 ・自立支援費収入 20,118,380 円	・計画相談新規契約件数は、41 件（児 21 件・者 20 件）で、前年度に比べ、2 件増えた。 ・令和 7 年度途中で終結となった件数は、24 件（児 11 件・者 13 件）であった。 ・児童に関しては、保護者の養育能力が低い、障がいがある等、本人よりも世帯に課題がある児童の計画相談依頼が増えている。 ・児童発達支援や放課後等デイサービスの利用希望者は増える一方、障害児相談支援事業所の数が少ない状況は変わらず続いており、相談員一人あたりが担当する児童ケース数は増えている。
(3) 社会的援護を必要とする人の権利擁護		
①福祉サービス利用 援助事業	○相談件数 1,048 件 認知症高齢者 214 件 知的障害者 178 件 精神障害者 592 件 その他 64 件 ○契約件数 27 件 認知症高齢者 8 件 知的障害者 7 件 精神障害者 9 件 その他 3 件 ○新規契約件数 7 件 ○解約件数 5 件 ○生活支援員 6 名 ○広報啓発活動	・精神障がい、知的障がいのある方の利用件数が増えたことで、より細やかな支援が必要となり、関係機関と密に連携をとることができた。 ・金銭管理を行ううえで、収支バランスを本人と相談し、生活保護受給への支援を行った。 ・中核機関の体制整備によって、他機関と顔の見える関係づくりができ、利用相談がスムーズになった。 ・出前講座は民生委員児童委員や介護支援専門員を対象に行い、

実施事業名	実施内容	実績成果等
②法人後見事業 ③成年後見制度利用促進に伴う中核機関委託事業	出前講座 ・ 6/11 日常生活自立支援事業について (約 120 名) ・ 7/17 日常生活自立支援事業から成年後見制度へ (35 名) 市社協広報紙掲載 コミュニティ FM-UU で周知 ○支援員活動フォローアップ業務 利用料変更に伴う説明会 5/16 (5 名) 安全運転講習 6/4 (5 名) フォローアップ研修 2/24 (5 名) ○中核機関との連携 地域連携協議会への参加 (5/28、10/22) ○推進委員会 (6/6、11/18) ○法人後見業務 (後見 5 保佐 1 補助 0) ○法人後見監督業務 1 件 (市民後見人) ○推進委員会 (6/6、11/18) ○地域連携ネットワークの推進 ・ 牛久市成年後見地域連携協議会 5/28 (14 名) 10/22 (14 名) ○広報機能 ・ 市民向け成年後見研修会 12/8(8 名) 12/22(7 名) 2/9(4 名) 2/20(5 名) ・ 関係機関向け成年後見制度研修会 6/19 (22 名) ・ 成年後見制度研修会 8/21 (22 名) 11/21 (37 名) ・ 任意後見制度研修会 1/20 (37 名) ・ 成年後見利用促進研修会 7/17 (38 名) ・ パンフレットの配布 事業所 70 ヶ所 金融機関 17 ヶ所 ・ 広報用ポケットティッシュ作成と配布 ・ 出張啓発活動の実施 牛久愛和総合病院 9/24,11/28,1/28,3/25 常陽銀行 1/16,3/17 ○相談機能 ・ 相談件数 477 件 ・ チーム数 20 チーム ・ 一次相談事業所連絡会 6/25 12/24 ・ 成年後見利用検討会議 7/22 (2 件) 9/25(1 件) 1/28(1 件) 3/11(1 件) ○成年後見制度利用促進機能	事業の周知を図ることができた。 ・ 牛久市成年後見地域連携協議会において、地域連携ネットワークを意識した広報啓発活動について審議することができた。 ・ 成年後見利用促進のため、さまざまな研修会の実施とポケットティッシュやパンフレットを作成した。 ・ 今年度から、直接的な相談窓口として成年後見制度に関する相談対応を行い、本人や相談者に対して細やかな対応をすることができた。 ・ 成年後見人等候補者調整会議を開催し、本人の課題を解決するために適切な成年後見人等候補者を調整することができた。 ・ 後見人支援機能として、成年後見人等からの相談件数が増加している。また、親族後見人の情報交換会を実施することができた。

実施事業名	実施内容	実績成果等
	・成年後見人等候補者調整会議 7/3(1件) 9/4(1件) 11/6(1件) 1/15(1件) ・市民後見人養成研修修了者向けのフォローアップ研修 9/18(10名) ○後見人支援機能 ・成年後見選任後の相談 20件 ・親族後見人向け後見活動勉強会 10/17(14名) ・親族後見人向け情報交換会 2/17(2名) ○不正防止効果の取り組みに向けた検討 ・各事業に不正防止効果の視点を反映できるよう、担当課と打ち合わせを行った。	
(4) 課題解決のための情報提供及び支援		
①生活福祉資金貸付事業	○相談件数 95件 ・生活費の不足 70件 ・医療費の不足 3件 ・転居費用 3件 ・債務の返済 8件 ・教育支援資金 4件 ・家賃・ローンの支払 2件 ・その他 5件	・新型コロナウイルス特例貸付の償還に関する相談及び償還猶予申請の対応を行った。特例貸付利用者からの相談に応じてフォローアップを行った。
②特例貸付フォローアップ支援事業	○相談件数(重複あり) 93件 ・償還免除者 27件 ・免除に至らない償還困難な借受人 55件 ・償還猶予 6件 ・自立相談支援機関へのつなぎ 8件 ・少額返済相談で県社協へのつなぎ 2件 ・償還猶予申請 2件	・特例貸付を利用した361名を対象に自立相談支援事業等のチラシを郵送した。そのうち反応があったのが16件、郵便不達は30件だった。
③小口資金貸付事業	○相談件数 0件 ・貸付件数 0件 ・償還件数 0件	
④歳末たすけ合い配分事業	○在宅援護対象見舞金配布事業 ・対象:55世帯×15,000円 ○一人暮らし高齢者ふれあい訪問事業 ・75歳以上一人暮らし高齢者把握2,143世帯 ・配布数1,994世帯	・年末の訪問活動は対象者から毎年好評で、地域では平常時及び災害時等の見守り体制づくりにつながった。
⑤自立相談支援事業	○生活困窮者の新規相談件数 252件 ・貸付相談 87件 ・住居確保給付金 33件 ・特例貸付償還について 6件 ・就労相談 26件 ・滞納、債務相談 7件 ・ひきこもり 1件	・就労準備支援カフェを毎週開催し、働くことに悩みを抱えている方の就労相談や、家族以外の人との関わりが少ない方等の交流の場とした。 ・牛久小地区カフェ、向台小地区カフェ及びつきいちカフェを毎

実施事業名	実施内容	実績成果等
	・就労準備支援カフェ参加、問合せ 6 件 ・病気相談 8 件 ・食べるものがない 30 件 ・家計改善 3 件 ・その他 45 件	月 1 回ずつ開催し、働くことに悩みを抱え、家族以外の人との関りが少ない方の居場所づくりのひとつとして実施した。 ・家計改善支援事業では対象者に、月々の生活収支や市税滞納状況など確認し、将来的に自己管理できるよう支援を行った。
	○プランに基づく支援 50 件 ・生活困窮者 37 件 ・被保護者 13 件 ○他制度利用や支援へのつなぎ 86 件 ・生活福祉資金特例貸付償還猶予申請 2 件 ・生活保護の相談へのつなぎ 20 件 ・食糧支援 44 件 ・生活保護受給者等就労自立促進事業 8 件 ・一般就労 9 件 ・増収者 3 件	
	○支援調整会議の実施 12 回	
	個別ケース検討、プラン策定、終結の承認	
	○関係機関との連携	
	・市役所 316 件	
	・ハローワーク 64 件	
	・障害者基幹相談支援センター 122 件	
	・医療機関 9 件	
	・地域包括支援センター 31 件	
	○フードバンクと連携した食糧支援 44 件	
	(米 129.5 kg、食品 537.9 kg)	
	市民からきずな BOX への食品提供	
	(米 354.0 kg、食品 766.6 kg)	
	○関係機関研修会の実施	
	・8/28 17 名 中央生涯学習センター	
	・生活困窮者自立相談支援事業の実施状況と法改正による変更点	
	・牛久市における居住支援について	
	・事前アンケートにより住居の確保が困難なケースについてのグループワーク	
	○就労準備支援事業	
	・プランに基づく支援 5 件	
	支援回数 78 回	
	・就労準備支援カフェの実施 50 回	
	参加人数延べ 202 名 就労相談 26 名	
	・牛久小地区カフェの実施 11 回	
	参加人数延べ 19 名	
	・向台小地区カフェの実施 11 回	

実施事業名	実施内容	実績成果等
	参加人数延べ 11 名 ○被保護者就労準備支援事業 ・プランに基づく支援 12 件 支援回数 174 回 ・つきいちカフェの実施 12 回 参加人数延べ 56 名 ○家計改善支援事業 ・プランに基づく支援 9 件 支援回数 148 回 ○被保護者家計改善支援事業 ・プランに基づく支援 1 件 支援回数 9 回	

3. ニーズにあったサービスの開発と実施

生活課題の多様化・個別化に対し、関係機関等との連携を図りながら、質の高い福祉サービスを提供するとともに、新しいサービスを開発し実施する

(1) ニーズに即した介護保険事業の展開

①居宅介護支援事業	○利用実績 開所日数 294 日 契約件数 206 名 ・介護保険 実利用者数 166 名 延利用者数 1,603 名 介護保険収入 28,044,469 円 ・介護予防支援 実利用者数 40 名 延利用者数 465 名 介護予防支援収入 2,100,533 円 ・認定調査 認定調査件数（牛久市） 81 件 （他市町村） 26 件 認定調査収入（牛久市） 311,850 円 （他市町村） 122,020 円	・要介護認定の申請者数が増えていることから、一般相談や包括支援センターからの新規相談が増加している。延べ利用者数が140件増加し、介護保険収入も増加した。 ただし、介護支援専門員が担当する中には困難ケースもあるため、件数だけでなく、担当ケースの状況や経過等も考慮し調整しながら新規受入を行っている。 ・認定調査は、認定有効期間が最長36か月と更新期間が長くなっているため、自事業所の担当利用者の調査は減っている。市からの委託調査の依頼がコンスタントに入るようになってきている。
②通所介護事業	○利用実績 開所日数 308 日 契約者数 115 名 実利用者数 115 名 延利用者数 7,977 名 （令和6年度比292名増） 一日平均利用者数 25.9 名 介護保険収入 74,957,720 円	・新型コロナウイルスの影響により、5月と12月に一時的に利用控えが起こったが、1日平均利用者数は令和6年度の25.1名と比較し、25.9名となった。収入も令和6年度と比較し、2,807,230円の増となった。 ・季節毎の行事に加え、県立医療

実施事業名	実施内容	実績成果等
	平均単価 9,396 円（令和 6 年度比 8 円増） ○行事（季節行事） ・お花見散策（全 6 回） 計 81 名参加 ・夏祭り（全 3 回） 計 82 名参加 ・県立医療大アカペラサークル交流会（全 1 回） 計 26 名参加 ・新年会（全 3 回） 計 73 名参加 ○外出レクリエーション ・チューリップ観賞（和田公園） 計 6 名参加 ・いちご狩り（ファーム八千代） 計 4 名参加 ・つくばローズガーデン 計 3 名参加 ・水郷潮来あやめ園 計 4 名参加 ・那珂湊おさかな市場 計 12 名参加 ・茨城空港 計 3 名参加 ・大洗水族館 計 3 名参加 ・霞ヶ浦観光遊覧船 計 3 名参加 ・果物狩り（梨・ぶどう） 計 3 名参加 ・りんご狩り 計 2 名参加 ・筑波山 計 3 名参加 ・いばらきフラワーパーク 計 2 名参加 ・つくばエキスポセンター 計 2 名参加 ・霞ヶ浦どうぶつとみんなの家 計 2 名参加 ○創作活動及び畑、苗植え作業 4 月 ハーバリウム 他 3 種類 花植え、畑作業 5 月 レジンのキーホルダー 他 3 種類 6 月 ウインドチャイム 他 3 種類 サツマイモ苗植え 7 月 七夕飾り 他 3 種類 8 月 ビーズアクセサリ作り 他 2 種類 手作りうちわ 9 月 アートボックス 他 3 種類 10 月 プラバンキーホルダー 他 3 種類 11 月 切り絵風壁飾り 他 3 種類 12 月 毛糸のミニツリー 他 3 種類 1 月 手作り破魔矢 他 3 種類 2 月 スノーリース 他 2 種類 毛糸のチャーム 3 月 ミニトート風小物入れ 他 3 種類 ○おやつ作りレクリエーション（全 11 回） ○ボランティア受け入れ 個人ボランティア数 12 名	大学学生との交流会も開催し、利用者様の生活意欲の向上や交流促進につながった。 ・少人数により外出レクリエーションを実施した。事前にアンケートを実施し、利用者様自ら行き先を選択する機会を設けることで、好評を得た。 また、外出レクの参加を励みに、日ごろの機能訓練に意欲を見せる利用者様も多い。 ・創作活動では、年間計画を立て、月毎に季節にちなんだテーマのプログラムを用意した。 ボランティアも創作活動に参加し、地域の方との交流にもつながっている。 ・カラオケや麻雀等は、趣味サークルのような雰囲気です、とても楽しまれている。 ・機能訓練指導員による機能訓練では、利用者様自身の意欲も高く、体力や筋力の維持向上につながった。 ・ボランティアセンターとの連携により、個人ボランティアの受入れ人数が増加した。 また、夏祭りや新年会においても、ボランティアの協力をいただくことができた。近隣の学校にもチラシを配布したことで、学生ボランティア計 12 名の来訪にもつながった。

実施事業名	実施内容	実績成果等
③訪問介護事業	学生ボランティア（8月～9月） 12名 夏祭りボランティア 24名 シルバーリハビリ体操 1団体 外出レクリエーションボランティア 8名 新年会ボランティア 3団体 （千心会・民謡 2005・牛久かつぱ太鼓） ○利用実績 開所日数 244日 ・介護保険 契約者数 29名 実利用者数 27名 延利用者数 1,561名 一日平均利用者数 6.4名 介護保険収入 5,694,502円 ・障害者総合支援 契約者数 32名 実利用者数 24名 延利用者数 1,121名 一日平均利用者数 4.6名 総合支援収入 7,067,258円 ・移動支援 契約者数 16名 実利用者数 12名 延利用者数 360名 一日平均利用者数 1.5名 移動支援収入 1,266,280円	・令和6年度よりヘルパー1名が減少したため、収入・延べ利用者数とも前年度より減少したが、令和7年8月よりヘルパー1名増員し、受け入れ利用者数も増えてきている（介護保険実利用者 13名→27名） ・市内訪問介護事業所の閉鎖に伴い、利用者の受け入れを行ったことで、要支援認定の利用者数が令和7年11月から5件増加した。 ・エールからの依頼が多く入ることもあり、障害者総合支援の利用者数は増減しながらも一定数を維持している。
(2) ニーズに即した障害福祉サービスの展開		
①知的障害者デイサービス事業	○利用実績 開所日数 245日 登録者数 67名 実利用者数 67名 延利用者数 12,709名 一日平均利用者数 51.8名 自立支援費収入 141,229,731円 利用者負担金収入 2,931,651円	・契約者数は、4月に新規利用者様が3名増えて66名でスタートしたが、年度途中で1名が施設入所し、新規利用者1名が増えた。1日の平均利用者数は令和6年度より約1名増の51.8名だった。自立支援費収入は約400万円の増収となった。将来、入所施設の利用を念頭に、他の施設を併用する利用者が増えている。

実施事業名	実施内容	実績成果等
	○就労継続支援B型事業 ・請負作業 収入 3,029,685 円 (株)マーナ (株)シバコーポレーション (株)イムロ茨城工場 - ブックオフ(株)牛久店 - 茨城トヨタ自動車(株) - 自動販売機管理 - 市役所依頼の作業 - 通所介護浴室清掃 - 居宅介護支援・訪問介護公用車洗車 ・自主製品 収入 11,768,316 円 - パン・クッキー製造 - 名刺印刷 ・外出活動 - かみね動物園 (5/12,20) - 雪印メグミルク阿見工場 (6/9,24) - 梨狩り (9/2) - ひたち海浜公園 (10/21) - 大洗水族館 (11/17,25) - JAXA つくば (12/11) - ボウリング (2/2) - アリオ柏 (1/4,19,2/16,24,3/3,16) - イーアスつくば (7/8,9/5,10/6,12/19) ・お花見 (4/9)	・請負作業は、前年度から引き続き左記の事業所の請負作業に従事した。令和 6 年度より約 33 万円の増収となったが、さらなる工賃向上を目指し、利用者一人ひとりの興味や適性に合った仕事を開拓していく必要がある。 ・自主製品事業（パン・焼菓子製造）は、コロナ禍で中止していた市役所販売を再開し、新たに福祉センターロビーでのパン販売を行った。新たに地域のイベントへの参加や、エスカード牛久にてシネマクラブでの焼き菓子販売など多くの場所で販売することが出来た。また、新商品「プチマド」を牛久栄進高校文化祭や Wai ワイまつり等で販売をした。販売機会の拡大や新商品の開発を通して多くの方にわくわくの商品を知っていただき、手に取っていただくことを大いに実感できた。自主製品全体では令和 6 年度より約 120 万円の増収となった。 ・利用者一人あたりの平均工賃月額、令和 6 年度より 3,268 円増の 24,323 円となった。 ・外出活動は、利用者のご希望を踏まえて少人数のグループで各所に出かけ、日々のリフレッシュと作業意欲の向上を図った。一人 2 か所選択し、今年度は昼食やショッピングも楽しめる機会を設けた。

実施事業名	実施内容	実績成果等
	○自立訓練（生活訓練）事業 ・生活訓練（集団）（毎日） ・作業訓練（毎日） ・買物訓練（フードストッカー 5/27） （ダイソー 6/24） （フードストッカー 7/17） （フードストッカー 10/21） （セブンイレブン 11/10） （フードストッカー 12/16） ・調理訓練（焼きそば 5/28） （オムライス 7/18） （カレーライス 10/22） （鍋 12/17） ・公共交通機関利用訓練（牛久市役所 8/20） （牛久駅 1/19） ・移動・外食訓練（サイゼリヤアトレ取手店 9/17） （土浦駅飲食店 2/25） ・外出活動（土浦ラクスマリーナ 3/23） ○生活介護事業 ・生活支援班 ・創作班 ・PT（理学療法士）・OT（作業療法士）指導 ・音楽療法（毎月第1月曜日、第3火曜日） ・生産活動 ・自動販売機清掃 ・お楽しみ会（自動販売機で購入 4/30） （ハロウィンパーティー10/31） （カフェピアーズ 1/26,28,29） ・季節のレク（うちわ作り 7/8～22） （かき氷 8/25～29） （アイスクリーム作り 9/29～10/3） （お花見弁当 3/25～31） ・調理レク（大学芋 6/10～16） （カップデザート 2/24～27） ・市民文化祭見学（10/8,9,10） ・ナイスハートフェスティバル見学（12/4,5,8）	・4月に特別支援学校高等部を卒業した2名が加わり、5名で活動をスタートしたが、3月にさらに1名の受け入れを行った。 ・生活能力向上のため、掃除や洗濯、調理などの日常生活訓練を実施したり、買い物の仕方や会計、公共交通機関の利用、外出先でのマナーを身に付けるなどの社会生活訓練を行った。 ・将来の就労を見据え、体力づくりや軽作業などの作業訓練に加え、パン納品や販売の機会を設け、挨拶やコミュニケーションを実践的に行う訓練を行った。さらに、身体機能の維持、向上のため、理学療法士による指導も行った。 ・2年目の利用者については、就労継続支援事業への移行を目指して作業体験を実施した。さらに、制度変更に伴って就労選択支援事業所との連携を行った。 ・医療的ケアを必要とする利用者の受け入れを開始した。令和7年度は2名の受け入れを行なった。 ・日々の活動では、グループ編成を行ない、午前と午後で活動を分け、利用者のペースに合わせた活動に取り組むことを重視した。それにより、利用者一人ひとりの活動量を増やすことができ、また理学療法士や作業療法士と協力して身体機能の維持、向上を図った。 ・季節のイベントとして、うちわ作りを行ない、完成したうちわは夏祭りで使用した。かき氷、アイスクリーム作りも好評だった。 ・外出活動では、少人数での外出を実施。動物が苦手な利用者が多く、今後の企画の参考となった。

実施事業名	実施内容	実績成果等
	- 外出 らぼっぼなめがたファーマーズヴィレッジ (11/10,12,20) - 霞ヶ浦どうぶつとみんなのいえ (11/14,18) - 大学生との交流運動会 (11/26) - 民間企業による「お出かけ実験教室」 (2/6,3/10) ○健康管理 - 身体検査 (月 1 回) - 心電図検査 (5/21～6/5 31 名実施) - 歯科検診 (10/9 26 名実施) - 健康診断 (10/31 27 名実施) ○行事 - 夏祭り (7/24、26 家族、88 名参加) - クリスマス会 (12/13、31 家族 78 名参加) - 茨城県障害者スポーツ大会 (雨天により中止) ○相談支援 - 第 1 回保護者懇談会 (6/27,9 名、7/4,10 名) - 第 2 回保護者懇談会、昼食会 (2/20,10 名) - 第 1 回保護者面談 (9/22～10/17) - 第 2 回保護者面談 (2/24～3/19)	- 新規に、厚生労働省の「特別支援学校卒業後における生活介護利用モデルの作成事業」の採択を受け、利用者の障害の程度に関わらず、多様な生涯学習の機会を増やすことに取り組んだ。日々の活動の中に、ICT 機器を利用した知育プログラムと、視覚・聴覚・嗅覚・触覚を刺激し、リラックス効果が期待できるスヌーズレンを導入、実践した。ICT 機器に関しては、学生時代から取り組んでいる利用者が増えている。特別支援学校に職員が学習の様子を見学に行き、卒後数年内の利用者の学習の様子について情報共有し、円滑に取り入れることができた。また地域交流の一環で、大学生や民間企業と一緒にイベントを実施した。今後も利用者の多様な体験を支援し、地域への啓発等に繋げていけるよう継続して取り組む。 - 地域交流のイベント等があったが、感染症の大きな流行もなく、年間通じて安定した利用状況だった。 - 今年度は新しい試みとして夏祭りを平日に開催したが、参加世帯が昨年より 7 世帯減ったため、課題が残った。クリスマス会は土曜日の開催。 - 第 1 回保護者懇談会は、就労継続支援事業と生活介護事業に分けて 2 日間に渡り実施した。第 2 回保護者懇談会は、新型コロナウイルス感染症が落ち着いてきたこともあり、合同で開催した。また新しい試みで昼食会を行い、ご家族同士の交流の場を作ることができた。

実施事業名	実施内容	実績成果等
②身体障害者デイサービス事業	○日中一時支援事業 平日利用延人数 1147 名 土曜日利用延人数 406 名 運営費補助金収入 3,983,733 円	・日中一時支援事業の平均利用者数は、平日が 4.7 名、土曜日が 8.1 名であり、前年度より増加傾向にある。ご家族の高齢化などにより、ニーズはさらに増えていくと思われることから、ニーズに伴って体制を整えていく必要があると思われる。
	○利用実績 開所日数 248 日 登録者数 41 名 実利用者数 38 名 延利用者数 3,429 名 一日平均利用者数 13.8 名 市受託金収入 39,129,781 円	・令和 7 年度は、新規登録が 3 名、入所された方が 1 名、市外へ転居された方が 1 名となった。1 日の平均利用者数は 13.8 名となり、令和 6 年度と比較して 0.7 名増となった。
	○訓練活動 ・社会生活訓練及び日常動作訓練 ・機能訓練 OT による機能訓練（月 8 回） PT による機能訓練（月 10 回） ST による言語訓練（月 1 回）	・機能訓練においては、専門職（OT・PT・ST）の指導のもと、利用者様が自身の身体状態を理解し、それぞれに適した運動に取り組むことができた。また、生活支援員が個々の生活課題に応じた、個別の訓練や、音楽に合わせた少人数での体操を継続的に実施することで、利用者様の意欲を維持しながら、身体機能の維持・向上を図ることができた。
	○生きがい活動 ・創作活動及び趣味教養活動（毎日） 籐細工、陶芸、絵画、書道、塗り絵、パソコン等	・陶芸や籐細工等の活動において、上肢や手指の動きを意識しながら意欲的に取り組むことで、食事、更衣、書字などの日常生活動作の維持・向上につなげることができた。
	・スポーツレクリエーション（週 2 回） フライングディスク、モルック、バグギー、卓球バレー、オーバルボール、ストラックアウト ・健康講座（年 3 回） 30 名 食中毒について（6/26） 11 名 感染症対策について（10/22） 8 名 春バテについて（3/19） 11 名 ・趣味教養講座（年 3 回） 47 名 風鈴（7/23） 14 名	・スポーツレクリエーションでは、様々な障がいのある方にも関心を持って取り組んでいただけるようルールを工夫しながら実施し、利用者様同士が楽しみながら身体を動かす機会となった。

実施事業名	実施内容	実績成果等
	ネームプレート (12/15) 15 名 ハーバリウムボールペン (3/25) 18 名 ・作品展への出展 パラアーティストフェスティバル 個人 20 名、共同作品 1 点 市民文化祭 16 名 小坂団地文化祭 15 名 ・作品販売 小坂団地秋祭り (9/14) こころの里秋まつり (中止) うしく Wai ワイまつり (11/ 3) 奥野ふれあいまつり (11/23) ・スポーツ大会 県障害者スポーツ大会 (5/11) 8 名 地域障害者スポーツ大会 (9/27) 17 名 障害者・高齢者フライングディスク競技大会 (10/5) 9 名 ・自主的活動 外出レクリエーション いちご狩り (2 回) 7 名 映画鑑賞 (2 回) 7 名 外食ラーメン (1 回) 4 名 外食シーサイドカフェ (1 回) 4 名 ヤクルト工場見学 (1 回) 4 名 キリンビール工場見学 (2 回) 6 名 ・屋外活動 お花見 (龍ヶ崎市森林公園) (3/30～4/3) 26 名 市民文化祭見学 (10/8～10) 19 名 うしく菊まつり (11/5.6.7.10.11) 18 名 鉄道博物館 (10/17) 18 名 パラアーティストフェスティバル見 (12/5) 18 名 国際福祉機器展 (10/8～10) 9 名 TSUKUBA 福祉機器展 (11/22) 14 名 エーザイ工場見学 (1/26) 6 名 (2/2) 9 名	・パラアーティストフェスティバルは、日頃から意欲的に作品作りに取り組み、20 名の利用者様が出展した。そのうち 1 名の利用者様と共同作品が茨城県身体障害者福祉団体連合会長賞を受賞することができた。 ・作品展への出展だけでなく、イベントでの作品販売に向けても、利用者様は意欲的に作品づくりに取り組むことができた。 ・スポーツ大会では、日頃の成果を発揮するために 3 つの大会に参加した。 ・外出レクリエーションでは、行き先や行程を利用者様ご自身で決定することで、日頃の活動では得られない達成感を得ることができ、活動意欲の向上にもつながった。 ・屋外活動で訪れた鉄道博物館では、館内で駅弁の昼食を楽しみながら展示車両を見学し、利用者様同士の交流を深めることができた。 ・パラアーティストフェスティバルの見学では、利用者様ご自身の日頃の創作活動の成果を確認するだけでなく、他の出展者の作品を鑑賞することで刺激を受け、さらなる創作意欲の向上につながった。見学後は、いこいの村涸沼にて昼食および買い物を楽しまれた。利用者様からは、作品展だけでなく、食事や買物も満喫できたとの喜びの声が聞くことができた。

実施事業名	実施内容	実績成果等
③放課後等デイサービス事業	○相談支援	・相談支援においては、相談支援事業所や居宅介護事業所等と連携を行い、サービス調整や介護保険への移行の相談、福祉用具の購入等の相談に対応し、生活課題の解決につなげた。
	○利用実績	・1日平均利用者数が令和6年度よりも0.3名増えて9.3名となった。また、契約者数2名、実利用者数は3名増加した。
	開所日数 292 日 契約者数 28 名 実利用者数 28 名 延利用者数 2,714 名 一日平均利用者数 9.3 名 障害児通所給付費収入 32,469,506 円 利用者負担金収入 1,629,732 円 日中一時支援費収入 170,388 円 受託事業収入（公費）措置分 2,027,169 円	・令和7年度は特別支援学校の創立記念日を利用して外出活動を行った。美浦特別支援学校の利用者は電車に乗って霞ヶ浦総合公園に遊びに行った。切符を改札に通してみたり、窓から景色を眺めたり、電車に乗ることを楽しんでいる利用者が多かった。つくば特別支援学校の利用者は阿見町総合運動公園に行く予定だったが、当日雨が降ってしまい、ほっともったでのテイクアウトランチに変更した。カレーライスなど好きなメニューを頼み、美味しそうに食べていた。
	○外出活動	・調理活動では、和食、洋食、中華など様々なメニューに挑戦した。令和7年度ではユニバーサルデザインの包丁やこども用の包丁を導入し、今まで一般的な包丁では力が足りなかったり、大きすぎたりして取り組むことができなかった利用者も挑戦することができた。また、ミキサーを購入し、固形物が経口摂取できない利用者にも他の利用者と同じメニューを楽しんでもらえるように工夫をした。
	・カフェ・ピアーズでの昼食（8/8、12/25） ・霞ヶ浦総合公園（10/14） ・カラオケ（8/27、12/24、3/26） ・市民文化祭見学（10/11） ・いばらきパルアーティストフェスティバル見学（12/6） ・おやつ買い物（7/22、8/21、3/25） ・月読神社へ初詣（1/6） ・お花見（3/31） ・テイクアウトランチ ほっともっと（6/28、11/25） すき家（7/30） マクドナルド（8/8） ガスト（12/26）	・夏休みにはエーザイ株式会社の皆様によるおでかけ実験教室でスライム作りに挑戦した。用意していただいた白衣を着て、試験
	○調理活動	
	・チャーハン（4/12） ・バーベキュー（5/24、11/22） ・オムライス（7/5） ・アレンジそうめん（8/18） ・夏野菜カレー（8/23） ・餃子（9/13） ・シチュー（11/13） ・ビーフストロガノフ（12/20） ・ちらし寿司（2/26） ・三色丼（3/14）	

実施事業名	実施内容	実績成果等
④福祉タクシー利用 料金助成事業 ⑤補助犬飼育管理費 助成事業 ⑥点字・声の広報発行 事業	○その他 ・音楽療法（月 2 回） ・エーザイおでかけ実験教室（8/20） ・ハロウィンパーティー（11/1） ・わくわくの夏祭り、クリスマス会参加 ○重度障害者福祉タクシー利用料金助成 ・人工透析 38 名 ・その他 102 名 ○身体障害者補助犬の飼育経費を一部助成 ・盲導犬利用者 2 名 ○点字広報 利用者 1 名 協力者 5 名 ○声の広報 利用者 10 名 協力者 17 名	管などの道具を使い、研究者になりきって取り組むことができた。 混ぜるごとに固まっていくスライムに興味津々の利用者が多かった。 ・申請者数は横ばいだが、タクシー券の利用は伸びている。 ・利用者様からは、飼育に必要な費用負担が軽減されると喜ばれた。
(3) ニーズに即した児童発達支援事業・保育園事業の展開		
①こども発達支援センター事業	○利用実績 ・開所日数 244 日 ・登録者数 152 人 ・実利用者数 143 名 ・延利用者数 4,395 名 ・一日平均利用者数 18.0 名 ・障害児通所給付費収入 54,866,402 円 ・市受託金収入 26,340,000 円 ○発達支援 ・小集団指導 延 3,767 名 （内 肢体不自由児クラス 0 名） （内 1～2 歳クラス 47 名） ・個別指導 延 1,315 名 ○家族支援 ・学習・講習 就学説明会 27 名 就園おはなし会 10 名 保護者勉強会（全 4 回） 54 名 療育基礎講座（全 3 回） 38 名 ペアレントトレーニング （3 回/3 グループ講座） 10 名 おしゃべり会（全 23 回） 延 111 名 ・主な行事 夏まつり 85 名（親子 53 組） 秋の遠足 10 名（親子 10 組）	・令和 6 年度と比較し、登録者数 20 名減、実利用者数 19 名減、1 日平均利用者数 0.7 名減、延べ利用者数は、160 名減となった。少子化が進み、市内に児童発達支援事業所が増え、他事業所を利用または併用する児童が増えている。未就園児クラスの利用は、毎日利用する方が減少した。 ・第三者評価を実施し、令和 8 年 1 月から中核機能強化施設として指定された。 ・夏祭りや遠足を開催し、親子でふれあったり、他の家族と交流したりする機会となった。夏まつりは、保育園や幼稚園の行事と重なってしまったことで、参加者が減少した。 ・保育所等訪問支援は、令和 6 年度比 29 名増、延べ 226 名と 80 名増加した。保護者や園からの依頼で園と園児、保護者の困り感に寄り添い、園での生活がよりスム

実施事業名	実施内容	実績成果等
② ふれあい保育園事業	・きょうだい児対応 延 620 名 ○相談援助 延 335 件 ○地域支援 ・新規相談（インテーク）61 件 ・保育所等訪問支援（給付対象分）103 件（延 226 名） ・その他の訪問支援（給付対象外）30 件（延 169 名） ・公開療育 24 回/16 日間 46 名参加 ・教委巡回相談への協力 21 回 ・就学時健診への協力 8 回 ・かるがも教室 30 回 ・療育相談 5 回（延べ 5 人） ・ケース会議の開催 4 回 ・市要保護児童対策地域協議会実務者全体会議 1 回 ・市子ども子育て会議 2 回 ・市いじめ問題専門委員会 4 回 ・市教育支援委員会 4 回	一ズに送れるよう、支援ができた。 ・公開療育は、46 名の幼稚園・保育園・認定こども園の先生の参加があった。参加した先生方と意見交換をすることができた。 ・療育相談は、かるがも教室から療育相談を挟まずにのぞみ園に繋がってくるケースが多かったため、令和 6 年度比 6 回減となった。
	牛久ふれあい保育園 ○運営実績 ・本園 130 名（利用定員 130 名） ・分園 20 名（利用定員 20 名） ・開園日数 294 日 ○特別保育事業 年間延べ人数 ・延長保育事業 1,742 名 ・一時保育 195 名 ○委託費収入 本園 165,695,050 円 分園 58,546,150 円 <主な行事> 毎月の誕生会、交通安全指導、食育活動、夏祭り、運動会、七五三集会、秋の遠足、ハロウィン、クリスマス会、味噌作り、ならせ餅、発表会、豆まき集会、お別れ遠足、卒園式 奥野さくらふれあい保育園 ○運営実績 ・66 名（利用定員 78 名） ・開園日数 294 日	・園児・保護者・職員の安全に配慮し、園行事を実施。虐待防止に対する研修を含め、職員一人ひとりが保育の知識を高められるよう日々話し合いを行った。 今年度も牛久グリーンファームでのじゃがいも掘り、大根抜きを体験し、食への意欲を育てることができた。 ・園庭周りの環境整備、発表会の衣装作り、向台行政区夏祭りや、敬老会への参加等、地域の方々と関係を築いていくことができた。小学校、児童クラブと情報を共有し、駐車場使用時の注意点や保護者への周知方法等、安全対策を行いながら施設内の子ども達の安心・安全に配慮していくことができた。 ・おくの義務教育学校が新校舎になり移転したことから、旧奥野小学校内は保育園のみの施設となり、子ども又職員の安全面、環

実施事業名	実施内容	実績成果等
	○特別保育事業 年間延べ人数 ・延長保育事業 353 名 ・一時保育 634 名 ○委託費収入 94,847,770 円 <主な行事> 毎月の誕生会、こいのぼり集会、プール開き、七夕、遠足 ハロウィン、七五三集会、味噌づくり、クリスマス会、豆まき集会、発表会、ひな祭り、交通安全教室、卒園式 上町ふれあい保育園 ○運営実績 ・本園 129 名（利用定員 130 名） ・分園 13 名（利用定員 12 名） ・開園日数 294 日 ○特別保育事業 年間延べ人数 ・延長保育事業 2,996 名 ・一時保育 284 名 ○委託費収入 本園 168,145,600 円 分園 35,580,510 円 <主な行事> 毎月の誕生会、季節ごとの集会（端午の節句など）、お楽しみ会（年長児）、交通安全教室、食育活動、園外保育、牛久小学校授業体験、夏まつり、運動会、発表会、クリスマス会、ふれあい遠足、おわかれ遠足、卒園式	境面の対策を日々整えながら運営してきた。職員一同、意識を持ち配慮してきた。移転してからも学校と図書室利用、行事などの交流また就学においても密に情報交換をしてきた。 ・中学生、地区社協との芋ほりや職場体験など外部の方との関りも経験できている。 ・3 歳児の在籍人数が少ないため 3、4 歳児混合クラスで 2 クラスに分けた。たて割にすることにより子どもたちにとっても大きく成長する姿もみられた。 ・牛久市役所保育課から、牛久駅前分園に 1 歳児待機児童の受入れを依頼された。0 歳児に 2 名配置していた職員のうち 1 名を 1 歳児に配置換えし、定員幅を増やした。その為、0 歳児の定員は通常 6 名のところ 3 名となった。例年に比べ 1 歳児が多かったからか、とても賑やかで活気が溢れていた。 ・日々日常の状況に応じ、熱中症対策や感染症対策など、環境構成や安全面に配慮しながら園行事を実施。職員と話し合い、行事の進行方法を改善するなど、新しい取り組みにも挑戦。保護者の理解を得ながら、園児中心の活動を行った。職員間での情報共有や共通理解を心掛け、全職員で協力しながら意欲的に取り組むことができた。 ・地域交流として上町行政区夏祭りに参加し、和太鼓を披露。また、牛久小学区地区社会福祉協議会「サロンとまり木」へは年齢別に訪問。利用者の皆様やスタッフの皆様との交流にも慣れ、地域交

実施事業名	実施内容	実績成果等
		流の場を通して、園児にも人と人との繋がり大切さを伝えてきた。 ・牛久小学校との交流では、業間休みを利用した交流（業間プロジェクト）を昼休みプロジェクトに変更し、交流時間を伸ばして活動。職員同士連携を取りながら実施することができた。園児も、交友関係が広がり、就学への期待が高まった。

Ⅲ.地域の福祉力を高める。

1. 支えあう心を養う

福祉の心を養い、地域福祉活動への関心を高める環境を整備する

(1) 情報発信による地域福祉活動の活性化

①「こんにちは！社協です」の発行 ②社協パンフレットの配布 ③ホームページによる情報発信	○社協広報紙の発行 ・6/1号、9/1号、1/1号、3/1号の発行（各戸及び関係機関配布） ○社協パンフレットの作成及び配布 ・社協の主事業をまとめた総合パンフレットの作成及び周知 1,000部 ○ホームページの運営及び公開 ・ホームページの活用 ・SNSの活用	・社協会員募集のお願いや各事業の紹介等、幅広く周知することができた。 ・多くの市民や関係者等に社協パンフレットを配布し、事業の紹介や理解を広められた。 ・ホームページ及びSNSを随時更新し、社協の情報を発信した。
---	--	---

2. 小地域福祉活動の推進

小地域福祉活動の基盤を整備し、住民主体の活動を支援する

(1) 小地域福祉活動の基盤づくりと活動支援

①地域福祉活動のコーディネート	○地区社協活動への主な支援・協働活動 ・牛久小学区地区社協：いやしの郷・いやしの郷カフェ、サロンとまり木の運営他 ・二小学区地区社協：地区社協ボランティア移送の実施、サロンむつわの運営他 ・おくの地区社協：おくのふれあいまつり、一人暮らし高齢者見守り訪問の実施他 ・神谷小学校区地区社協：小学生と協力したふれあい訪問、ウォーキング大会他 ・向台小学校区地区社協：地区社協ボランティア移送、新緑祭・収穫祭の出店協力他 ・岡田小学校区地区社協：1対1の見守り活動、地区社協ボランティア移送の実施他 ・中根小学校区地区社協：一人暮らし高齢者見守り訪問、親子ふれあいの旅他	・既存の交流活動やイベント等への支援と合わせ、地域包括支援センター等と連携して、認知症の人や家族の居場所であるオレンジカフェの実施を進めることができた。 ・新たな活動の実施に向け、人材の発掘から立上げまで、地域と連携して行う仕組みを整えることができた。
------------------------	--	--

実施事業名	実施内容	実績成果等
②地区社協活動支援 助成事業	・ひたち野うしく小学校地区社協：ふれあいまつり、ひだまりカフェの実施他 ○地区社協会長会議の開催 ・4/2、8/29 ○地区社協活動支援助成金の交付 ・地域の実情に即した地区社協活動の促進を図り、地域住民による地域福祉の増進に寄与 牛久小学区地区社協、二小学区地区社協、おくの地区社協、神谷小学校区地区社協、向台小学校区地区社協、岡田小学校区地区社協、中根小学校区地区社協、ひたち野うしく小学校区地区社協 8 地区社協×50 万円	・赤い羽根共同募金の配分金を活用し、地区社協活動を支援するための助成事業を行い、各地区社協で地域の実情に合った活動が推進された。
③地区社協支援事業	○地区社協活動支援事業の実施 ・地区社協の運営費助成と、地区社協活動を推進するため、地域福祉コーディネーターを設置し、円滑な事業運営を支援 牛久小学区地区社協、二小学区地区社協、おくの地区社協、神谷小学校区地区社協、向台小学校区地区社協 岡田小学校区地区社協、中根小学校区地区社協、ひたち野うしく小学校区地区社協 8 地区社協×20 万円	・地区社協運営費を助成することによって、役員会及び運営委員会など、各地区社協とも円滑な組織運営及び事業が推進された。 ・コーディネーターを設置し、地区社協と連携し、適切な支援が行えるよう体制の充実を図った。
④認知症の人を支える まちづくり事業	○認知症サポーター養成講座の実施 ・8 小学校 722 名	・小学校において、ボランティアの協力を得て講座を実施し、認知症への理解をとおして、支え合いの大切さを伝えることができた。
⑤生活支援体制整備 事業	○第1層協議体の設置 ・地域生活支援協議会の開催 第1回 5/23 23 名 第2回 3/3 23 名 ・スキルアップ研修の開催 10/3 135 名（うち地域生活支援協議会関係団体 68 名） エスカードホール 講演 防災はお片付けから始めよう！ 講師 赤プル（あかぷる）氏 ○第2層協議体の設置運営 ・牛久第二小学校区 6/2 8 名、10/6 8 名、2/2 9 名 スキルアップ研修 11/25 27 名 ・中根小学校区 6/5 10 名、10/2 7 名、2/5 9 名	・第1層協議体では、団体間の情報交換と、いばらきコープの取り組みや認知症ケア向上推進事業の内容について情報共有することができた。 ・第2層協議体では、高齢者等が住み慣れた地域で安心して元気に暮らせるように、認知症予防や健康教室など、地域の福祉課題に応じたスキルアップ研修等を各地区社協と共催で開催することができた。

実施事業名	実施内容	実績成果等
⑥福祉委員会	スキルアップ研修 11/5 41 名 ・牛久小学校区 5/27 10 名、9/25 9 名、2/12 7 名 スキルアップ研修 9/17 45 名 ・神谷小学校区 6/4 13 名、10/2 11 名、1/23 11 名 スキルアップ研修 ①9/24 45 名 ②12/8 40 名 ③2/4 45 名 ・ひたち野うしく小学校区 6/10 7 名、9/16 6 名、2/3 7 名 スキルアップ研修 2/28 25 名 ・岡田小学校区 6/6 8 名、9/26 11 名、1/30 9 名 スキルアップ研修 ①10/16 42 名 ②2/16 48 名 ・向台小学校区 6/2 9 名、9/29 10 名、2/10 12 名 スキルアップ研修 8/25 35 名 ・おくの義務教育学校区 6/9 11 名、9/19 10 名、2/9 10 名 スキルアップ研修 1/27 40 名 ○福祉委員会 5 月 23 日（金）開催 ・社協会員の募集依頼について ○社協会員加入 ・一般会員 13,553 世帯 会費額 6,359,900 円 ・特別会員 46 世帯 会費額 53,500 円 ○赤い羽根共同募金及び歳末たすけあい募金運動打ち合わせ会議 9 月 13 日（土）開催 ・赤い羽根及び歳末たすけあい募金協力依頼について	・令和 6 年度比 679 世帯、534,350 円の減となった。
(2) 人や地域がつながる活動の支援		
①地域福祉活動助成事業	○助成金交付審査会の開催 ・6/16 委員 5 名 ○申請団体 6 団体 ○助成決定団体 6 団体、13 事業 ○助成額 192,000 円	・赤い羽根共同募金の配分金を活用し、市民による障がい者支援や子育て支援等、地域福祉の向上につながった。

実施事業名	実施内容	実績成果等
②地区社協ボランティア移送サービス事業	○生きがいサポート協働事業の実施 ・二小学区地区社協 火・金曜日に外出サポート 利用者数：延べ 550 名 ・岡田小学校区地区社協 火・水・金曜日に外出サポート 利用者数：延べ 312 名 ・向台小学校区地区社協 月・木・金曜日に外出サポート 利用者数：延べ 126 名	・二小学区地区社協、岡田小学校区地区社協、向台小学校区地区社協が通院等の外出サポートを行い、その活動を支援した。 ・運転を担うボランティアの不足を補うため、広報紙や行政 LINE を活用して募集し、申込者へ説明会を行ったところ新たに 2 名の協力者を得た。
③ふれあいサロン活動の推進	○ふれあいサロン設置状況 計 64 か所 ・地域サロン 58 か所 回数 2,349 回 延べ人数 27,880 人 ・子育てサロン 6 か所 回数 59 回 延べ人数 1,158 人 ○ふれあいサロン研修会 ・からだのなかから元気にいきいき血管講座 5/28 41 名 牛久市中央生涯学習センター	・研修会は自分の身体と血管のこと、またそれに関する病気について学び、予防方法も知ることができた。地域活動の担い手として、健康維持につながる知識を深めた。
(3) 住民参加による相互扶助活動の充実		
①有償在宅福祉サービス事業	○ふれあいサービス 高齢者世帯及び障害者世帯への掃除や食事づくり等の家事援助 ・協力会員登録者 87 名（実動 18 名） ・利用会員登録者 36 世帯（実利用 16 世帯） ・延べ利用回数 560 回 ・延べ利用時間 467.5 時間	・訪問介護事業所の減少による一時的なサービス利用希望が増加したが、ボランティアでは対応が難しいケースも多かった。
②ファミリーサポートセンター事業	○ファミリーサポート 家族が子どもの面倒を見られない時の保育や送迎及び産前産後の家事援助 ・協力会員登録者 169 名（実動 36 名） ・利用会員登録者 691 世帯（実利用 48 世帯） ・延べ利用回数 728 回 ・延べ利用時間 764.0 時間	・夜間や休日の利用希望が増えているが、対応できる協力会員が少ないため、増員が急務である。
③重度身体障害者移送サービス事業	○重度身体障害者移送サービス 車イスの方等一人での歩行が困難な方が通院・社会参加等の際の移送支援 ・協力会員登録者 17 名（実動 6 名） ・利用会員登録者 56 名（実利用 17 名） ・延べ利用回数 567 回 ・延べ利用時間 283.5 時間	・主な活動は、通院及び当事者団体の定例会議等への移送である。サークル活動等社会参加のための送迎も増えているが、協力会員不足のため、サービス提供が難しいときもある。

実施事業名	実施内容	実績成果等
3. ボランティア・市民活動の活性化		
活動支援体制を強化し、常に新たなニーズに対応できる、市民に役立つボランティア・市民活動センターの充実を図る		
(1) 個々の活動支援と団体相互の連携強化		
①育成支援活動	○各種講座の開催 ・はじめてボランティアオンライン講座 5・7・9・11・1・3月の第4木曜日～ 1週間 YouTube で公開 延べ11名 ・NPO入門講座 7/23 6名 ・高校生コミュニケーション講座 7/29 15名 ・親子ふれあい体験 11/9 11家族36名 ・災害ボランティアセンター運営訓練 9/10 60名 ・声の広報音訳ボランティア養成講座 6月～8月の全8回 13名 ○福祉教育推進事業の強化及び福祉教育の活性化 ・福祉体験教室 車イス体験、アイマスク体験、高齢者疑似体験 小学校6校 中学校1校 延べ611名	・親子ふれあい体験では、日本遺産牛久シャトーを大冒険！と題し、牛久市の協力を得て敷地内探検を行った。参加者からは、初めて館内を見学し、牛久の歴史を知ったなどとても好評であった。 ・視覚障がい者支援に関心のあ る市民に声の広報作成に携わっ てもらう機会として、ボランティ ア養成講座を開催し、定員を上回 る参加希望があった。
②ネットワーク活動	○ボランティア団体等登録状況 登録団体数 228団体（4,594名）、 個人 518名、計 5,112名 ○ボランティア・市民活動団体等との連携・ 協働活動の実施 ・ゆめまちネット牛久市ボランティア・市民活 動ネットワークの事務局と協働連携 ・ボランティアリーダー研修会 7/6 76名 牛久市中央生涯学習センター シニアの元気がちいきを変える ・eスポーツ体験会 みんなの放課後 8月～3月の第3水曜日 計6回 延べ54名 ○子育て支援団体等との連携 ・子ども食堂情報交換会 6/16 9名 ・子どもに関するボランティア団体研修会 2/10 11名 ・子どもまんなか まんまるマルシェ 2/8 6団体 来場者約300名 ○施設等のボランティア担当者研修会 ・10/8 16施設19名 これからの福祉施設とボランティアの関わり	・新規団体 5団体の登録があつた。引き続き登録への声掛けをしていく。 ・リーダー研修会の参加者から、 元気にボランティア活動に取り 組む勇気がでたとの声が多かつた。 ・eスポーツ体験会では、高齢者の社会参加の促進を図り、高校生ボランティアとの交流をとおした健康づくりの場となった。 ・マルシェは、子ども食堂や学習支援などのボランティア団体の活動を広く市民に知ってもらう機会となった。

実施事業名	実施内容	実績成果等
(2) 新たなニーズにも対応できる機能の整備と充実		
①相談・あっせん活動 ②センター機能充実	○センター設備及び相談窓口の整備 ○活動に関する需給調整 ・ボランティア相談件数 102 件 ・紹介件数 58 件 ○運営委員会の開催 ・6/24、2/20 ・研修会 2/20 牛久での子ども食堂の取組み ○一般社団法人牛久青年会議所との「災害発生時における協力体制に関する協定」締結 ○ホームページの運営	・研修会では、当会と協働活動を進めている子育て支援団体の活動について、理解を深めることができた。
IV.役に立つ組織に再構築する。		
1. 職員教育の徹底 職員研修の充実を図り、住民の視点に立った地域福祉の推進役となる専門性を持った職員を育成する		
(1) 計画的な職員の育成		
①計画的な職員の育成	・各種専門研修への参加 ・内部研修の実施 ・計画的な職員採用 採用試験 5/24,11/29,1/24 の3回実施	・求人広告サイトを利用しての職員募集や、新卒学生、既卒者向けの職員採用試験を年3回実施し、令和7年7月採用3名、令和8年4月採用2名の専任職員を採用した。
2. 安定した財源の確保 コスト意識を徹底し、効果的で効率的な自律した経営に努める		
(1) 積極的な財源の確保		
①自主事業の効率的運営及び拡充 ②会費の拡大	・介護保険事業、障害者支援事業、牛久ふれあい保育園、奥野さくらふれあい保育園、上町ふれあい保育園の拠点区分ごとに自主事業を運営 ・市内法人に電話連絡及び訪問により、社協法人会員への協力を依頼 248社 (2,491,000円)	・利用者様の参加意欲を促すような内容を取り入れた事業展開を図るとともに、常にコストを意識した事業運営に努めている。 ・令和6年度対比、11社減、127,000円の減となった。
3. 計画の進行管理 この計画の進捗状況を確認し、進行を管理する。		
(1) 理事会による進行管理		
①理事会による進行管理	●理事会 ○第1回 5月29日(木) ・令和6年度一般会計収入支出補正予算(第6号)専決処分報告 ・令和7年度一般会計収入支出補正予算(第1号)専決処分報告 ・令和6年度事業報告 ・令和6年度一般会計収入支出決算	

実施事業名	実施内容	実績成果等
	・ 常務理事選任 ・ 苦情解決第三者委員選任 ・ 指定居宅介護事業所運営規程改正 ・ 指定特定相談支援事業所及び指定障害児相談支援事業所運営規程改正 ・ 指定知的障害者デイサービス事業所運営規程改正 ・ 指定放課後等デイサービス事業所運営規程改正 ・ 令和 7 年度第 1 回評議員会開催 ・ 事務局長選任 ○第 2 回 6 月 19 日（木） ・ 会長、副会長及び常務理事選任 ・ 評議員候補者提案 ・ 評議員選任解任委員選任 ・ 令和 7 年度一般会計収入支出補正予算（第 2 号）専決処分報告 ○第 3 回 11 月 12 日（水） ・ 令和 7 年度一般会計収入支出補正予算（第 3 号）専決処分報告 ・ 令和 7 年度一般会計収入支出補正予算（第 4 号） ・ 職員の育児・介護休業等規則改正 ・ 不動産取得入札参加 ・ 令和 7 年度一般会計収入支出補正予算（第 5 号） ○第 4 回 3 月 17 日（火） ・ 令和 7 年度一般会計収入支出補正予算（第 6 号）専決処分報告 ・ 令和 7 年度一般会計収入支出補正予算（第 7 号） ・ 令和 7 年度一般会計収入支出補正予算（第 8 号） ・ 令和 8 年度事業計画 ・ 令和 8 年度一般会計収入支出予算 ・ 職員就業規則改正 ・ 職員給与規程改正 ・ 指定訪問介護事業所運営規程改正 ・ 指定通所介護事業所運営規程改正 ・ 指定第一号訪問介護事業所運営規程改正 ・ 指定第一号通所介護事業所運営規程改正 ・ 役員等賠償責任保険契約締結	・ 吉川修貴氏を常務理事に選任した。 ・ 松浦純一を事務局長に選任した。 ・ 旧チャンス跡地の不動産取得のために入札（競売）に参加することの承認を得た。

実施事業名	実施内容	実績成果等
	・ 令和 7 年度社第 2 回評議員会開催 ●評議員会 ○第 1 回 6 月 19 日（木） ・ 令和 6 年度一般会計収入支出補正予算（第 6 号）専決処分報告 ・ 令和 7 年度一般会計収入支出補正予算（第 1 号）専決処分報告 ・ 令和 6 年度事業報告 ・ 令和 6 年度一般会計収入支出決算 監査報告 ・ 理事及び監事選任 ○第 2 回 3 月 24 日（火） ・ 令和 7 年度一般会計収入支出補正予算（第 2 号）専決処分報告 ・ 令和 7 年度一般会計収入支出補正予算（第 3 号）専決処分報告 ・ 令和 7 年度一般会計収入支出補正予算（第 4 号）専決処分報告 ・ 令和 7 年度一般会計収入支出補正予算（第 5 号）専決処分報告 ・ 令和 7 年度一般会計収入支出補正予算（第 6 号）専決処分報告 ・ 令和 7 年度一般会計収入支出補正予算（第 7 号） ・ 令和 7 年度一般会計収入支出補正予算（第 8 号） ・ 令和 8 年度事業計画 ・ 令和 8 年度一般会計収入支出予算 ・ 理事選任 ●評議員選任解任委員会 ○第 1 回 6 月 19 日（木） ・ 評議員の選任 20 名	・ 評議員構成団体の役員交代等に伴い、各団体等からの推薦書に基づく理事会の提案により、20 名の評議員の選任を行った。
4. 適切な法人運営、事務局運営 地域住民とともに住みよいまちづくり実現を目指すための組織、運営体制の整備に努める		
(1) 事務局運営体制の整備		
①効率的な事務局運営	○一般寄付 ・ 現金 46 件 1,192,185 円 ・ 物品 40 件 タオル・ぞうきん等生活消耗品、大人用おむつ、車いす等	・ 各種生活消耗品に加えて、大人用おむつや車いす等市内福祉施設等で活用できる物品の寄付をいただいた。

実施事業名	実施内容	実績成果等
(2) 情報発信機能の充実		
① 効果的なパブリシティの促進	・社協活動や福祉活動の情報を、社協広報紙(年4回)、パンフレットの配布(年1回)、地域かわら版(毎月)、ホームページ運営、SNS活用(随時更新)、FM うしくうれしく放送により市民へ情報提供	・SNSによる情報提供により、市民に最新の情報提供が行えている。 ・FM うしくうれしく放送で「社会福祉協議会だより」のコーナー(毎週1回)を設け、社協職員による事業紹介を行っている。